

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々には豊かな生活を送って頂きたい思いは強いですが、決して諦めの姿勢は持たず、ありのままを受け入れケアを行っています。
中庭の花や畑作り、余暇活動も努力しています。
職員同士又は、職員と入居者の関係構築も努力しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームで、同一法人の老人保健施設と隣接し近くにも同一法人の多くの施設がある。居間は広く、吹き抜けで開放感がある明るい造りで、広い庭の花壇や鶏小屋が眺められる。共用空間には利用者や職員による作品や写真が数多く飾られている。各居室も広めで、トイレと洗面所も設置され利便性が高い。職員や管理者は利用者一人ひとりに沿ったケアを心掛け、やさしく親しみやすい雰囲気です。サービスにあたっては、各ユニットでは定期的に「今月の目標」を設定し、利用者と一緒に頑張って明るく過ごしやすいホームづくりに取り組んでいる。近所の小学生が来訪し踊りや楽器演奏を披露してくれるなど地域とのつながりもあり、防災や行事などの点で近隣の同一法人の福祉施設とも協力している。往診や訪問看護など医療面の支援も充実しており、人事面や事務手続きなどで法人本部の支援体制も整っている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時より作られた理念の他、ホーム目標やユニット目標があり、目に付く所に掲げ職員が絶えず目に見えるようにしている。	法人のグループホーム共通の4つの施設理念の中にある「社会的緩和」の項目で、「地域とともにあること」を目標として掲げている。また、各ユニットには独自で作成した「今月の目標」を掲げ、利用者や職員間で共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の親子、法人保育園児、小学校との交流はある。入居者の認知の差が開いている事で交流は減少している。	近所の方が中庭に花を見に来て会話したり、小学生の「よさこい踊り」や楽器演奏、ボランティアのマジシャンによる手品などの訪問もある。また、事業所の合同の夏祭りに住民を招待している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組めていないと判断する。 職員1人1人が向上心を持つ事で貢献したい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は特に外部評価、防災訓練の事を話し合い、具体的な意見も頂いた。 運営の参考にさせて頂いている。	3ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、住民や老人クラブの代表者、地域包括支援センター職員、利用者家族などが参加し意見交換をしている。感染症対策や防災訓練などをテーマに開催しているが、昨年度は自己評価、外部評価に関する報告や話し合いは持たれていない。	自己評価および外部評価についても運営推進会議の場で報告して意見交換を行うとともに、会議の計画的なテーマ設定と幅広い家族の参加への呼びかけを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務手続きや市、区の会議以外での関わりは持っていないのが現状。	市や区のグループホーム連絡協議会に管理者が参加する他、市の職員が事業所を見学訪問することもある。事業所にはグループホーム事業の統括本部もあり、本部を通して市や区との情報交換を密に行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。勉強会も行いどのような事が拘束に繋がるのかも常に考えている。 但し、ご家族の希望で危険回避の為にベッド柵を使用している方もある。状況を見ながら外すよう努めている。 防犯目的以外の施錠はしていない。	法人全体で身体拘束に関する指針やマニュアルを作成し、研修会で学んでいる。日中、玄関は鍵をかけず、玄関付近に事務所を配置し外出がわかるようにしている。万が一外出があった場合でも、同一法人の近隣の老人保健施設などと協力し、連絡体制を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時、入浴時の全身チェック、日常状況の把握、職員個人に於いても注意を払いあい防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の機会が無かった。事業所や管理者が対応しているが職員の中には活用できる、できないも職員個人の意識の捉え方との意見もあった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね管理者対応だが、会話の中で互いの不安、疑問点を確認し理解を得られるよう対応している職員もある。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は真摯に受け止め職員で周知し改善できるよう努めている。意見箱、苦情処理対応者、第三者機関を設置している	利用者や家族との日ごろのコミュニケーションの中で意見を聞き、利用者本位に対応を行っている。得られた意見は連絡ノートで共有している。玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書には外部の苦情受付機関も明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で意見交換をして反映できるよう努めている。	職員が意見を言いやすい雰囲気を作り、定期的なユニット会議にて活発に意見交換し、運営に反映している。管理者や統括施設長も個別に職員と面談したり意見を聞くようにしている。職員の異動も必要最低限としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分受け止めてもらっていると判断している職員とそうは感じていない職員があり、各々の受け止め次第で変化する。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年に於いては法人内研修が充実。職員のキャリアに見合った教育、研修も僅かだが行えた。 外部研修は職員人員が限られており参加しにくいのが現状。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では双方のユニットでの研修機会があったが、ネットワーク構築には活かされていなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接話を伺い、出来得る限りの情報収集をして入居後のケアに結び付けられるように努めてはいる。 本人が何でも話してくれる環境も考慮。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や求めている事がケアに反映される様職員間で周知。来訪時には暖かい雰囲気迎え、信頼関係の構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合には概ね入居の方向で決定している。他サービスの利用について居宅ケアマネがある場合現段階での入居が望ましいかを確認している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の不安、喜び、日々の生活を通して傾聴し人生の先輩として尊敬する気持ちを持っている。互いに励まし励まされながら過ごしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を報告しながら双方共に意見を出し合い、ご本人にとってより良いケアを導きだそうとしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者ではあるが、手紙、電話、来訪のやり取りはしているものの、疎遠になってきている印象を受ける。又、入居した事により関係構築され外泊する方もある。	古くからの知人との手紙や電話のやり取りを手伝ったり、独居時の家を見に行くなどの支援をしている。また、家族対応ではあるが従来の自宅近くの美容院の利用をしている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志の関係把握に努め配慮している。軽度の方は個々人の交流は任せているが、職員が仲介し話題の提供を行っている。軽度の方が重度の方の心の支えになってくれている事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後直ちに関係を切る事はないが退居後の機関に委ねているのが現状。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時書類の参照、ご本人、ご家族からの聞き取り、日々の生活の中から把握する様努めている。ご本人から発するサインもあるので見逃さないように努力はしている。	言葉で思いを表現することができる利用者は半分程度であるが、表現するのが困難な利用者も表情やしぐさ、行動パターンから思いや意向を把握できしており、情報を職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリーや聞き取りにて行っている。又、職員間でも情報交換を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気付き、情報交換、申し送り、記録で解り易く把握できるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と担当職員が話し合い作成している。会議でも話合われている。ご家族の要望は何っても返答に乏しいのが現状。状況に見合ったプラン作成をしている。	利用開始時に1ヶ月程度の暫定的な介護計画を作成し、関係者で話し合った上で、本計画を作成している。ケアチェック表に基づいて定期的にカンファレンスを行い、3ヶ月～6ヶ月の期間で介護計画を見直し作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物、申し送りで大小問わず情報を共有している。記入する事で改善点も解り易く、ケアへ反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に長期間になる受診、予定されていない行事の対応はしているが、職員の人員上柔軟な支援に欠けている部分もあると判断。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現段階ではないが、本年度よりボランティアを導入予定の為ご本人の要望に応じた支援をしていきたい。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は事前確認のもと決定。医療連携が整っており適切な医療を受けられるよう努めている。	協力病院による内科、精神科、皮膚科などの定期的な往診を受け、週1回の訪問看護も受けている。協力病院以外も状況に応じて通院支援を行っている。受診結果は「受診・家族連絡情報」に記録し、家族に適切に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護で心身状態の把握をしてもらっている。相談や、担当医師との調整も行ってくれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は添書や口頭でご本人の施設での暮らしぶりもお伝えしている。生活リズムを極端に変えないよう配慮してもらっている。担当者や情報交換、カンファレンスを行い早期退院に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針はあるが、定期的には話われてはいない。状況変化時に留まっているのが現状で、ご家族も核心に触れられたくないのか戸惑っている事もある。	2年ほど前に作成した「重度化した場合における対応に係る指針」を全家族に説明し、書類を取り交わしている。看取りについては事業所で対応可能な範囲を説明し、協力施設などの説明も行って家族の納得を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講、常に緊急事態のシュミレーションをしておく事も各職員が行うようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は行っており、対処方法は全職員が理解している。地域の方の協力は施設近くに住んでいる職員や同法人の職員に依頼している。	昨年度以降、6、12、4月に避難訓練を実施し、うち1回は夜間想定訓練も行っている。スプリンクラーは開設当初より設置している。近隣の福祉施設と災害時の協力体制を整えており、職員の救命訓練も定期的に受講している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理は徹底していると判断す。入居者は人生の先輩である事を常に心に留めてケアの工夫に努めている。	職員は一人ひとりを尊重したケアを意識し、利用者への言葉かけは優しく丁寧である。個人記録は指定の棚で安全に管理され、訪問者用の受付簿もカード化されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が決定できる事を作っているが、表現できない方はご家族に伺う。入居者の良い所を多く見つけ豊かに過ごせるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者レベル差が大きくなった事、受診や入浴日があり困難となってきている。向き合う気持ち、ゆとりを持ちたいが力不足を痛感。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣類の選択、マニキュア、整髪、お化粧品に配慮。楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は業者にメニューを委託しており入居者の好みを反映させるには至っていない。盛り付け、下ごしらえ、片付けはすすんでお手伝いして下さる方と共に行っている。	調理の下ごしらえや盛り付け、下膳など利用者のできる範囲で職員と一緒にいき、職員も利用者と同じテーブルで同じ食事を楽しくとっている。畑から収穫されるトマトやキュウリなど季節の野菜が食卓に上り、トウモロコシやスイカなどはおやつとして好評である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託にてカロリー計算された食事を提供。食事、水分も個々の状態に合わせて工夫している。摂取量もチェックケアに反映。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。拒否のある方はタイミングを見計らって支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事、水分量を把握し排便の有無や排泄パターンも把握してサインを見逃さない。尿パット等の使用は極力避け、且つ失敗に結びつかないよう支援している。	居室にトイレと洗面所があり、職員は排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、「ご飯前だから手を洗いましょう」などの声かけでトイレ誘導している。排泄に関する直接的な言葉をなるべく使わないようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫と共に自然排便が困難な方は坐剤を使用。又、排泄介助の際は腹部のハリも見るようにしている。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一部入居者にはご希望の時間を伺い対応。入浴を拒む方は言葉掛けや職員間の連携をスムーズにして入浴してもらっている。夜間帯の支援は職員人員上困難。	最低週2回入浴してもらっている。曜日・時間帯は決めているが、利用者の状況や希望に応じて変更している。夏場の外出後はシャワー浴も行っている。拒否の強い利用者には時間をずらしたり、「一緒に入りましょう」などの言葉がけで上手に誘導している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体力に見合った休息をとっている。日中は活動を促し、生活のリズムを整えられるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員二人で確認し誤薬防止に努めている。入居者が服用し終えるまで見届ける。特に降圧剤、向精神薬は変化を見逃さない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好きな事、得意な事で力を発揮できるよう努め感謝の言葉も伝えているが一部の方からは不満が聞かれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の心身の状況に応じて中庭の散歩や畑作業は行っているが、職員の人員の都合と入居者レベルの差が大きくなってきている為支援できていないのが現状。	夏季の天候の良い日は、広い中庭を散歩したり、居間からウッドデッキに出て飼育されている鶏を眺めたりできる。歩いて近隣のコンビニに行ったり車でスーパーやドラッグストアに行くこともある。一方、月ごとの外出行事もあるが、冬季の外出機会は少ない。	冬季にも天候や利用者の状況をみながら、車を利用して大型施設に行ったり、ドライブで周囲の景色を楽しんだり、少しでも外出の機会を増やしていくことを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できている方については美容室代や好みの物を購入する等行っている。出納長を記入している方もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制せず行っている。御家族、友人との電話、文通の他、携帯電話を所持している方もある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング全体の日当たりが良く、絨毯も華やか。壁には毎月の手作りカレンダーや壁飾り、季節の花を生ける等して四季感を表出している。	居間は天井が高く、天窓からの採光も適度で明るく、ゆったりと気持ちの良い空間となっている。浴槽も広々として清潔であり、リフト浴ができる設備も整っている。また、居間や廊下には利用者の手作りの貼り絵や習字の作品などがセンス良く飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間にソファやテーブルを置き、好きな場所で過ごせられるよう配慮していると判断する。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面所、トイレがありプライバシーが考慮されている。其々に使い慣れた物を使用し居心地よく過ごせる工夫はされていると思う。	各居室にはトイレと洗面所が設置され、テレビ台、ベッドが用意されているが、自分の好みのものを持ち込むことも自由である。利用者は馴染みのものや家族の写真を飾ったり、仏壇を置くなど安心して生活できる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り、傾聴、環境作りに努め混乱や失敗が無いよう職員同士で情報交換している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット3号棟」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム開設当初からの理念があり、職員はそれに基づきケアに当たっているが、地域密着型を意識したものとは言い難い。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺が施設群であることもあり地域との交流は少ないものの、庭を開放し近隣の子供連れの方が遊びに来ることがある。また、近隣小学校から定期的に慰問がある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献をする機会を持っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は真摯に受け止めているが、それを即座にサービス向上へと繋げることができないことが多い。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者からの指導や指摘等に対しては改善しているが、密な協力関係にあるとは言い難い。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外・内部の研修や資料の配布等により身体拘束についての理解ができるようにしており、それを行わないケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外・内部の研修や資料の配布等により理解ができるよう努めている。また、日常ケアの中で利用者に異変(身体的・行動的異変等)が見られる際には互いに報告しあうなどして注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会外部研修に頼っている現状で多くはない。 また、これまで活用に至った経緯もない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時(場合によっては見学時)に説明を行い、疑問点についても必ず確認している。また、入居後であっても、随時質問には応じている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な機会を設けることはしていないが、意見箱の設置や家族に対しては契約時に苦情受付に対する説明(契約書等への記載を含む)を行い、面会時等常に何かあれば受け付けるようにしている。また、利用者は意思表示をできる方が少ない為、日常の関わりの中から理解できるように努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談を行い職員の意見を聞いている。また、必要に応じて都度の意見も言うことができる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い把握・整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会は多く確保されており、勤務扱いとしたり参加費等もホームで負担している。 また、研修等の情報提供や勤務調整も行い職員育成に繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交換研修を実施している。 法人以外の同業者とは外部研修を通じて交流を持つだけに留まっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聴くことのできる機会は1度あるかないかであり、認知症の特性上、多くの場合は本人からの要望等を初期の段階で把握することは困難である。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や見学等の場面において家族の考えや要望を把握するようにし関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際にGH入居が適切か否かを判断し他サービスを勧めることもあるが、多くの場合は「まず入居」を希望される場合が多い為できる限り対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り役割を持ってもらい協力して生活していると思ってもらえるようにしていると共に、職員も一緒に楽しめる時間を持てるようにしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様として対応するので極力家族の要望には応えるようにしているが、本人との関係には十分配慮しており、協力も得られている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との関係は面会が主になってしまっているが、いつでも気兼ねなく訪問してもらえるようにしている。(面会場所や時間、訪問時の対応等) 馴染みの場所へ出かけることはできていない。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士が話をしたり共通の認識が持てるように心がけている。また、利用者同士が仲たがいでいる場合は関係修復に努める等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでそのようなケースはないが、家族からの要望があれば対応したい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを表現できる方については話を聴くようにしているが、多くは日常の関わりの中で把握できるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用していたサービス業者から面談や書類にて情報を提供してもらったり、本人との会話の中から生活歴を把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や職員間の情報交換により把握されており、現状に変化がみられる場合は特に把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を確認し作成するよう心掛けている。また、スタッフ会議での話し合いをプランに活用している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子と共に日頃と異なる本人の言動等を記入するようにし、情報の共有ができるようにはなっているが、じっくりと記録を読み返す時間がない。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できうる限り個々のニーズに応じた対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内で生活が簡潔してしまいがちで、地域社会資源の活用には至っていない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定は相談のうえ行い、かかりつけ医とは情報の提供や相談等を行いながら関係構築を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に生活状況等を伝え、必要なアドバイスを受けている。また、緊急時にも電話連絡にて指示を受けられるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調異変時の状況に加え平常時の生活状況も情報提供している。また、退院可能時には出来るだけ即座に対応するようにしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行けることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の対応について説明を行っているのに加え、必要に応じ説明を行っている。但し、家族感情を考え、早い段階での話し合いは行っていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に説明、マニュアルを各自に配布すると共にユニット内にも設置。また、去年は全職員を対象に救命講習も実施している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入職時にマニュアルを配布すると共に、通報機器の取り扱い方法や避難経路等を説明。また、年2回の避難訓練も実施している。ホーム周辺には法人内施設が多くあるため、災害時の協力体制をとっている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは丁寧な中にも親しみのある、相手にあった理解してもらえる言葉を用いているようにしている。また、対応についても個々にあった対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の可能な方については、折に触れ希望を聞くようにしている。しかし、自己決定ができる方は極一部に限られている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常は時間にとらわれることなく、無理強いすることなく個々のペースで過ごしてもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常では清潔に留意した身だしなみを心掛けており、外出時にはいつもよりおしゃれをしてもらう等の対応をしている。化粧を行う方に対しては、化粧品の購入等の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けについては可能な範囲でお手伝いを行っている。また、利用者と職員は同じ献立を一緒に摂り、会話をしながら食事をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量の把握に努め、不足と思われる際には別途補食する等して対応している。必要に応じて医師に相談することもあり。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方については食後のケアは徹底できているが、自分で行う方については確認が十分行えていない現状にある。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄にあった誘導を心掛けている。また、オムツ等使用の方についても使用方法の検討を行いトイレでの排泄に繋げている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物による予防はなかなか行えず、必要な方には医療との連携で便秘の解消に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、その時の状況に応じて日にちや時間をずらして入浴してもらえるよう対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況やペースに合わせて休息・安眠の支援をしている。居室の他、リビングや廊下でも休息が取れるようソファ等を設置している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが十分な理解をしているとはいえない。利用者毎に薬の説明書を保管し都度確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力や得意分野に応じ家事等の役割分担をしているが、楽しみ・気分転換の支援については十分に対応できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の散歩等は日常的に行えるものの、個人の希望には人間的な問題から対応できないことも多い。 また、ホームで外出行事を行っていると共に、家族と外出されるケースもある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理意識のある方については、自己管理してもらっており、買い物や病院等の支払いを行ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はホーム内にポストを設置し、本人が投函できるようにしている。(後に職員が本投函する) 電話についても基本制限はないが、家族の方の負担にならない様支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いやごみ等がない様清潔を心掛けている。また、各所に利用者の作品や写真を飾り雰囲気作りに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファや椅子を置き、自由に過ごすことができるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・調度品の持ち込みは自由で、備え付けの家具はあるが不要な場合は撤去も可能。個々に応じた配置や飾りを心掛けている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口は車椅子の方でも自由に行動ができる広さがあり、また廊下や浴室には手すりを設置している。居室入り口には個々の表札を出し、居室が認識しやすいようにしている。		

目標達成計画

事業所名 茨戸ふいみりあ3号棟

作成日：平成 22 年 6月 17 日

市町村届出日：平成 22 年 6月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のテーマに昨年度は自己評価、外部評価に関する報告が持たれていなかった。又、会議の計画的なテーマ設定と家族への呼掛けが必要。	運営推進鍵のテーマの計画化と多くの方に参加していただく。	4ユニット合同で会議を開催しており前もって予定を立て日時、テーマを幅広く設定したい。タイムリーな内容も取り入れていく。	2~4ヶ月
2	49	冬期間の外出について機会設定を多くした方が良い。	外出機会を設定し、気分転換、社会参加の場としたい。	感染症の流行、気候、入居者状況を勘案した上でお誕生会を外食にする、買い物機会を多くする等で設定する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。